

いなほ

第86号

2019年3月20日

NPO 法人 萌

代表 波多江伯夫

横浜市戸塚区深谷町 893-2

B型事業所 工房いなほ

相談支援事業所 ふかや

自立生活援助事業所 ほなみ

グループホーム 独歩

TEL 045-443-7416

URL <http://www.mo-e.jp>

モノ作りの楽しさ

朝8時朝礼から始まる。作業指示書を見て作業開始。僕たちの仕事は木製パレット製造である。パレットは荷物を積む荷役台で、パレットに積んだ製品をフォークリフトでトラックに積み込む場所に運ぶための必需品。

木材を製材してパレットを作り指定された日に配送する。製材は図面通りに切らなくてはならない。1台に使用する木材は10枚くらいで100台なら1000枚、3種類となれば3000枚となる。納期日から逆算して1日の目標達成数が決まる。目標を達成するためには1時間に何台となる。生産効率は、スピードではなくムダな動きの改善である。作業台の横に材料を置いて1歩で取って1歩で作業台に置く。1台当たりムダな動作は2歩ですむ。材料が遠いと取って運ぶのに6歩かかると、1時間20台とすると120歩、5時間600歩、2歩ならば40歩、5時間で200歩、ムダが3倍となり、目標数は達成しないこととなる。焦るあまりにスピード追求になりがちであるが、実はムダ取りの方が効率よくて、ストレスを感じなくて済む。要はムダの無い材料配置が効率アップとなる。

ムダのない動作は、手を伸ばす、つかむ、運ぶ、位置を決める、放す、道具を使う、組み立てるなどの18の動作の基本を1910年代アメリカのレンガ職人が考案した(サブリック)。パレット製造は、機械はほとんど使わず、手作業であるので、基本動作という生産管理の原点が大変役に立つ。

製造の工程は作業の流れとなる。一人の作業量は生産量と時間によっておのずと目標が設定される。工程と工程の間には運搬の流れがある。スムーズな生産には段取りという前段階が必要となる。いくつもの作業工程の中でのムダ取りが働く時間の縮小とつながる。しかし多少のムダが無いと面白さもない。

生産管理(IE)という考えは作業の流れを効率よくするものである。福祉と無縁と思われがちであるが就労支援のプロセスそのものである。ムダの改善は生産を向上するが、それだけでは不足している。世界恐慌の真っ只中の1930年代に、アメリカのホーソン工場で生産効率の実験がされた。その中で分かったことは、声掛け、見守り、関心などコミュニケーションがないと生産向上につながらないということだった(ホーソン効果)。モノから製品を作る面白さや達成感を仲間と一緒に分かち合うことが大切であると云っている。

みんなに聞いてみました *本当はこんな仕事がしたい!

あんな仕事を夢見てた!



- Ga さん フォークマン
Ao さん 施設外就労に行ってみたかった。
Ta さん 介護の仕事
Oo さん 今のままで・・・
Ku さん 基盤の解体、慣れました。楽しかった!
Oo さん パソコン系の仕事がしたかった。
Sh さん 清掃の仕事
Se さん 色々な免許を取って仕事ごとがしたい。
Og さん 本当は解体ではなく、組み立てがやりたい。
Mi さん 工場勤務がしてみたい。
Ar さん 牧場や農業の仕事がしたい。
Oz さん 小さい頃はケーキ屋さんになりたかった。
Us さん 作家
Ri さん 救命士になりたかった。
Ok さん 将棋棋士
Ki 子供の頃、カー・スタントマンに憧れて、石原フロの仕事をして、毎日黒塗りの日産セドリックに乗って、ぶつけて壊したり、ジャンプしてひっくり返るのが夢でした。
みなさま、お忙しいなか、ご協力ありがとうございました。 Ki



グループホーム独歩 花見会* 1回目寒くて流れ、2回目も寒い！
ホームリビングで花見会となりました。
食事はリッチでしたよ**



パレット班 利用者も職員も急募しています。

増えた受注量に生産が追い付かないため、きびしいです。

編集後記

2018年度が終わります。通信遅れてすみません。物価が4月からあがった。巷では、めでたいめでたいと言うムード。貧しい家庭は火の車だ。生活保護費も削られて、本当の経済は良好なのか？恩恵は感じられない。

事例検討その2***私が40代の頃出会った女性***人の強みとは何か？

私はある法人の地域活動センターで仕事をしていました。そこで出会ったAさんはB2の知的障害を持った、統合失調症と言われていた女性であった。彼女は20代後半であったように記憶している。いつも、ギラギラした目をして、タウンワークやらアルバイト募集の冊子を持ち歩き、仕事の面接に行っては落ち、行っては落ちを繰り返し、その都度落ち込んでいた。彼女には自傷行為があった。気分がイライラしては腕を切ったりしていた。当時私は法人の携帯を所持していたので、夜でもメールが頻繁にきた。落ち込んだ気持ちや、イライラが書かれてあった。夕食を食べながら、子供には食事時の携帯の使用は禁止してしながら、私は彼女からのメールだと気になって返信してしまうのである。助けを求められれば、夜中でも彼女のいるホームに駆け付けた。

気分が落ち込まないように、休日は映画やらスパやら一緒に余暇をするようにしていた。当事者意識を持った方がよいと思い、ピープルファーストの大会と一緒に出掛けたりもしていた。

私は、彼女は統合失調症ではないと思っていた。(まあ、医者ではないから、あくまで私の感である。)

転機を、彼女がもっともしたい「仕事」を探すことに見出すことにした。面接から、仕事を始めるときには引率もした。企業に彼女のまじめさを話、仕事の配慮点も説明した。しかし、就職して4日目位にいつも倒れてしまう発作のようなものが起き、救急車で運ばれてしまうのだ。医学的に問題があったわけでもない。そのたびに、雇用はストップされる。何回もそれを繰り返した。休日に救急車のサイレンを聞くたびに、ああ、また彼女かもしれないと不安でたまらなかった。ついに、ドクターから就職探しをストップされた。

しかし、ほとぼりがさめると、また、仕事を見つけようと私に言ってくるのである。私はもう失敗はできないと考え、地域の就労センターで仕事の適正検査を受けてもらい、第三者に彼女が仕事ができるようにゆだねた。幸い、理解のある支援者に会い、その支援者が彼女の就労は不可能ではないと所属していたホームの責任者を説得してくれた。

ついたのは清掃業務だった。3日の短時間から開始し、ジョブコーチがついた。4日になり、5日になっていった。倒れる発作は見られなかった。

* * * * *

私とその法人を辞めてからも、時々バスの中で出会った。9年間仕事は続いていた。最近、ある医院で職員に引率された彼女に出会った。ギラギラした眼差しはなくなり、ひどく太ってしまった。「薬の影響ではと思った」。仕事は？と聞いたら、いろいろあって、最近辞めたと言っていた。体から気がなくなっていた。

人間を取り巻く環境が、人にはすごい影響を与えていく。どういう人生が一番良いのか？寄り添うというのはそれを共に歩いていくことだと思う。問題を起こしても、地域で生きていくんだと云う心がある、ギラギラしている人が私は好きだ。

3月号も遅れてすみません (所長)